



かざして発見！

モノの新たな スタートライン

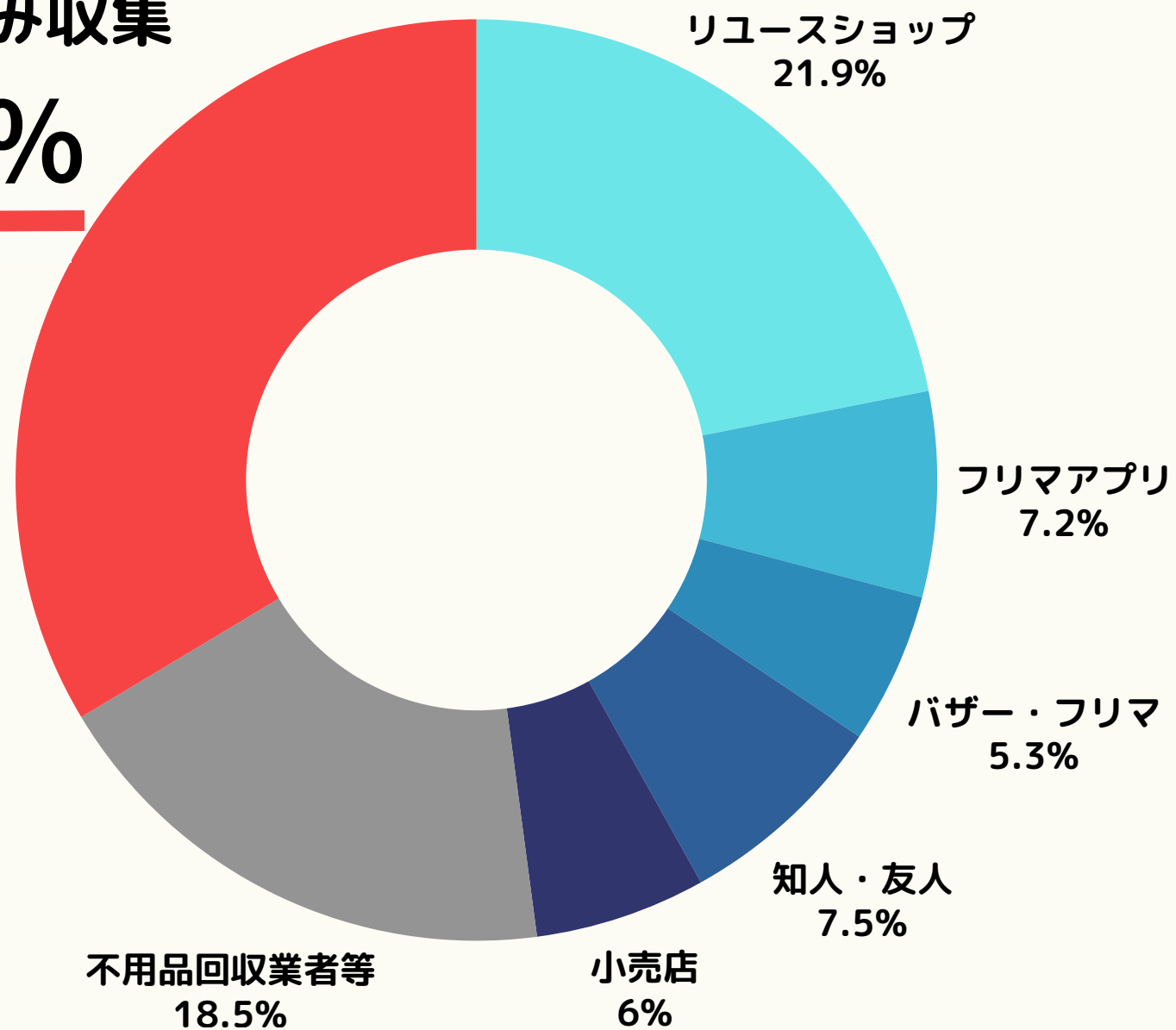
Trash Lens

まだまだ活用できるものが
適当に捨てられて
もったいない

家具類の手放し先割合

自治体のごみ収集

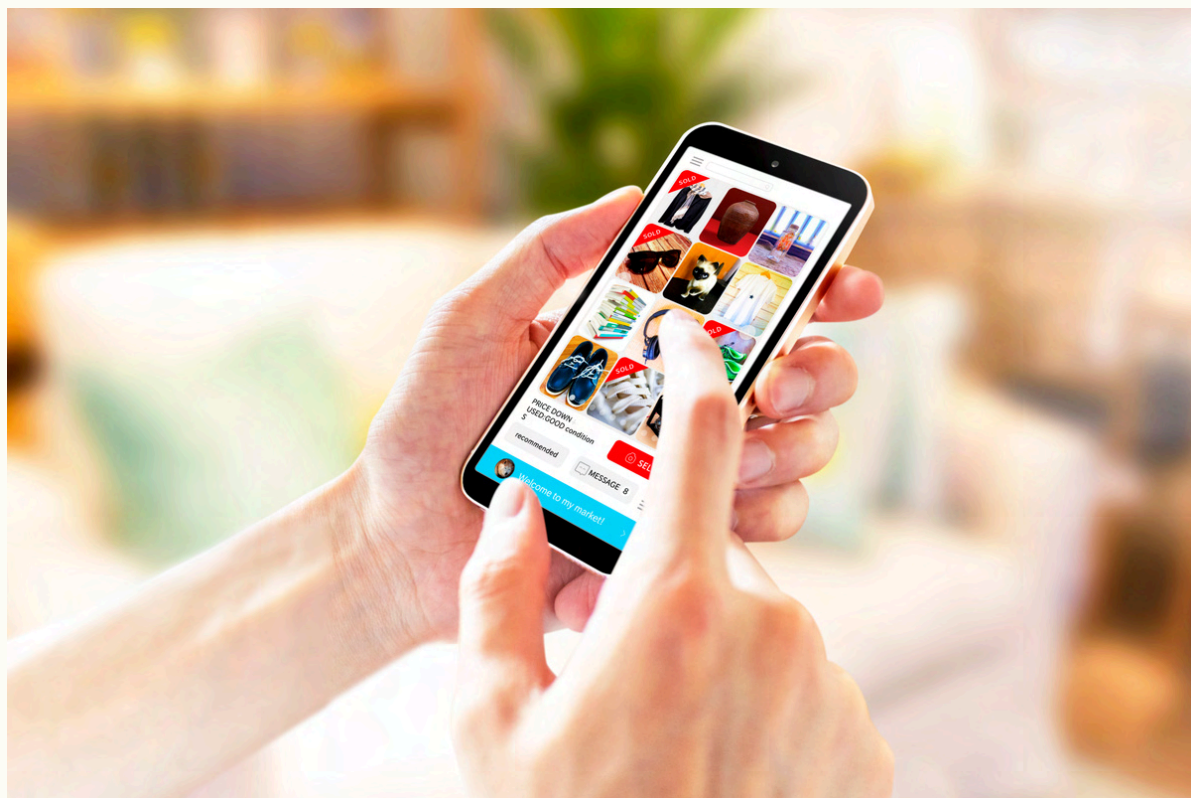
33.6%



環境省「リユース読本」(平成28年)
P.17よりグラフを作成



価値が見えにくいモノの多くが
自治体のごみ収集として
回収されている



リユース

フリマアプリ利用者が世代を問わず
利用されている

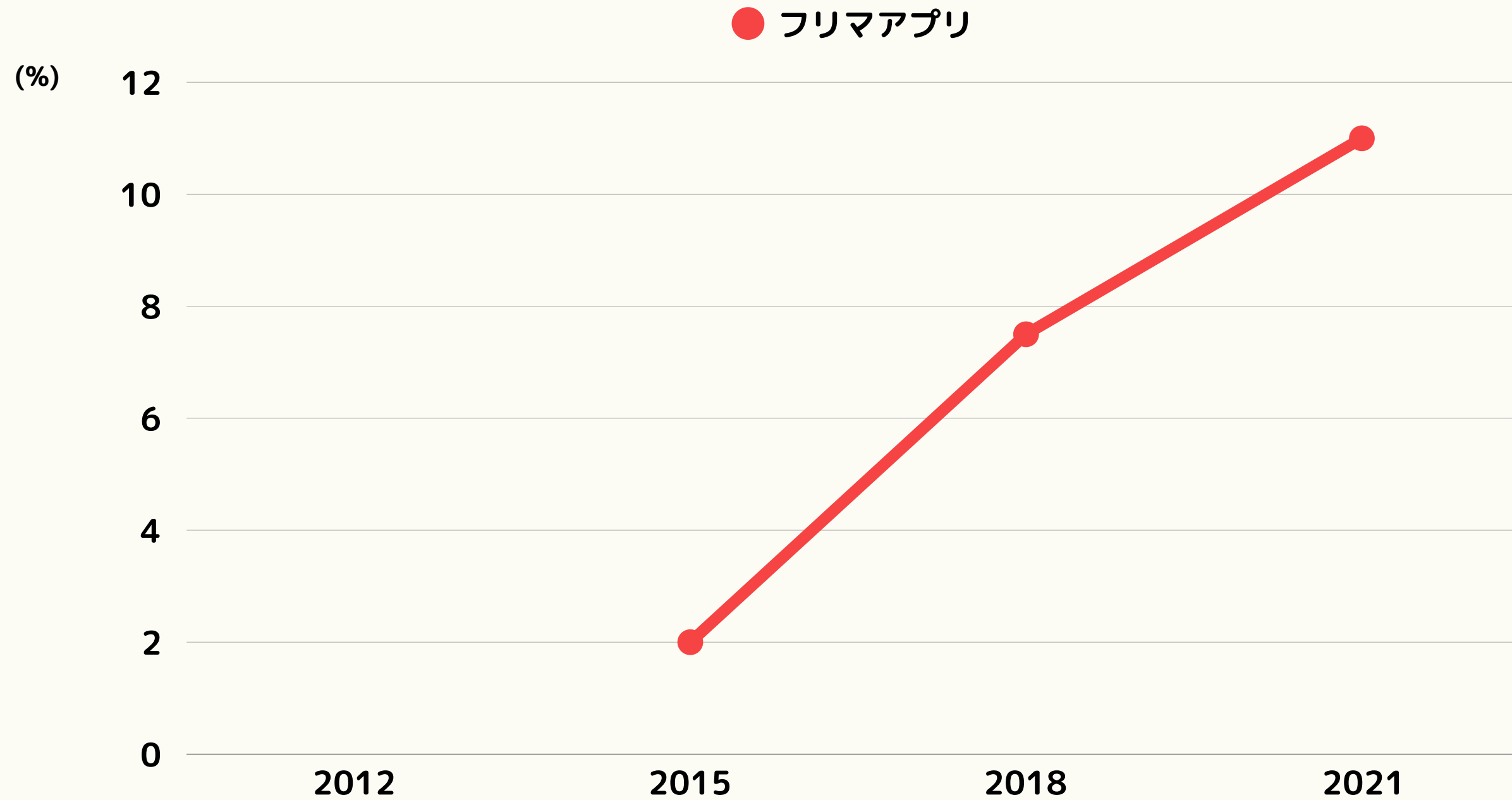


アップサイクル

取り組む企業・個人が増加

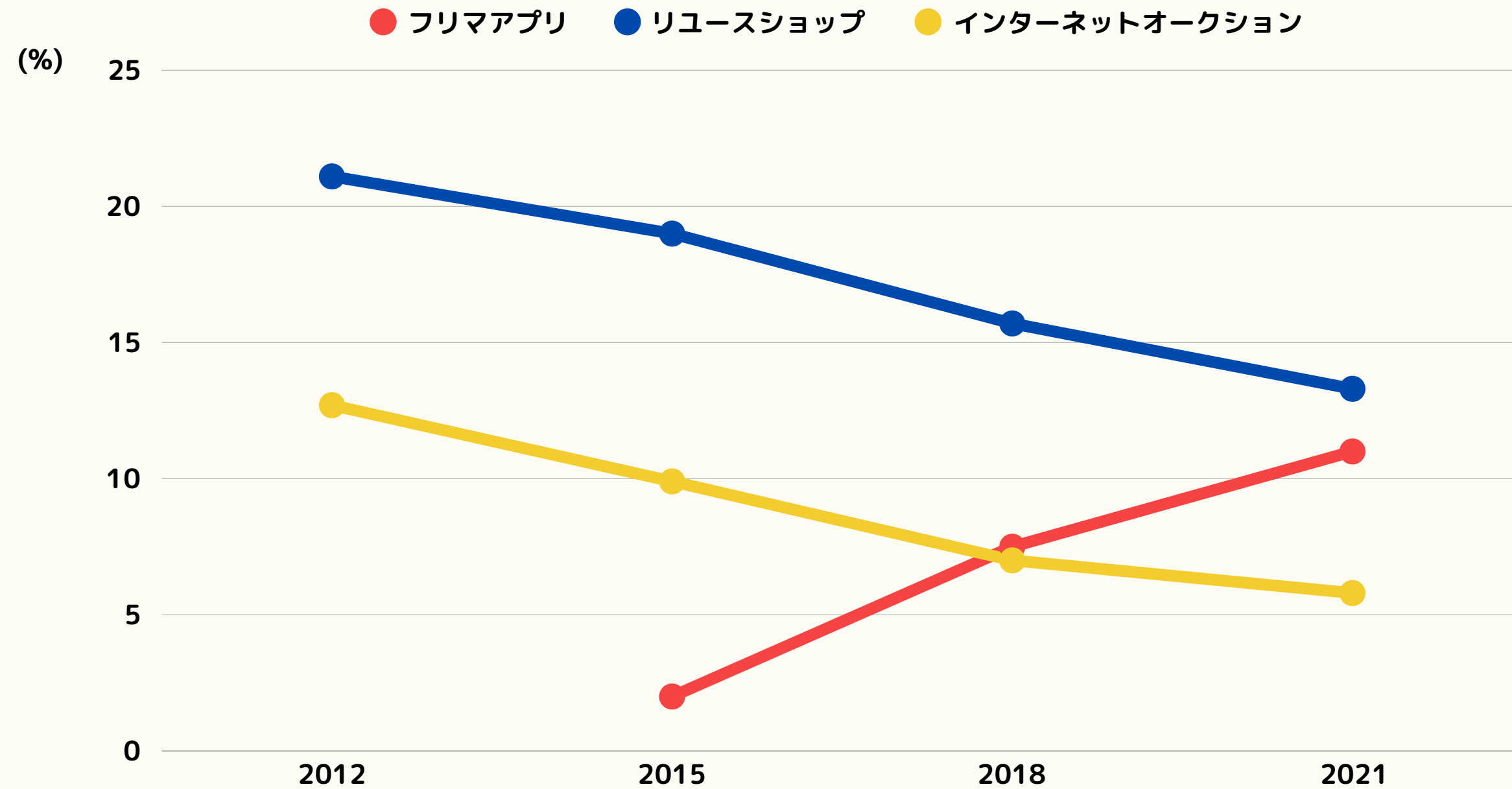
手放すもの・手放されるものに価値を見出す個人・事業者が増えている

一年で利用したリユース手段



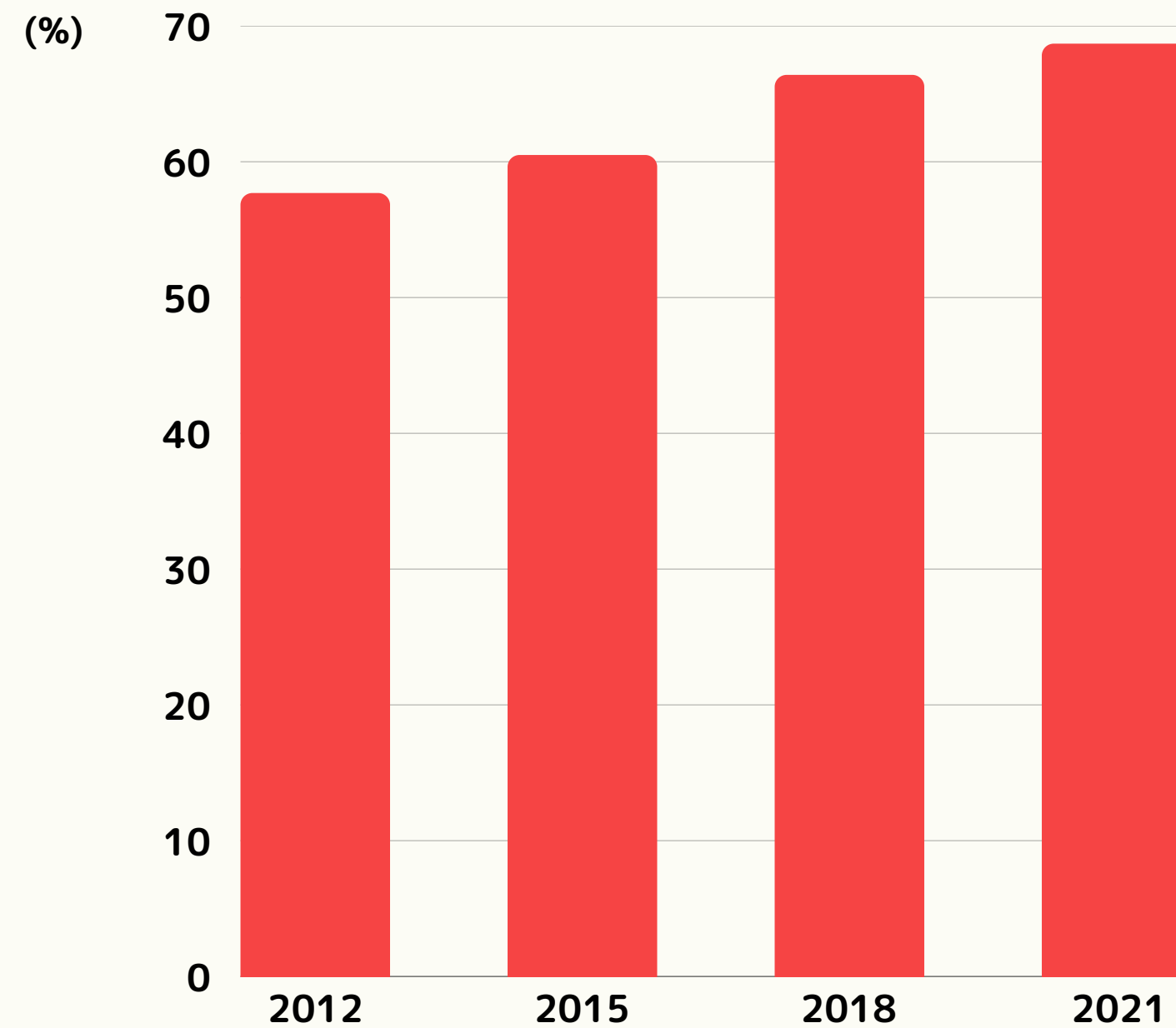
環境省「令和3年度リユース市場規模調査報告書」P.70 図99 より作成

一年で利用したリユース手段



環境省「令和3年度リユース市場規模調査報告書」P.70 図99 より作成

一年でいずれのリユース手段も利用しなかった割合



環境省「令和3年度リユース市場規模調査報告書」P.70 図99 より作成

ゴミを再利用するなんて
面倒くさそう



使わなくなったものを売らない理由

4人に1人

売るより捨てる方が楽

再利用して
良いことあるの？



使わなくなったものを売らない理由

2人に1人

売っても大した金額にならない

もっと活かせるゴミも…

調べるのは面倒

何が良いのか不明

なので活用されない

なぜ取り組んでいるのか？

10



幼少期より、
ゴミをおもちゃに変えていた



ゴミ箱の先でゴミを活かそう
と頑張る人の存在を知る
ゴミ問題を仕組みとして
解決する方法を考え始める



ゴミ問題解決を目指した
アプリ開発
環境スタートアップに3年間
エンジニアとして従事

Trash Lensとは？

2

ゴミをスマホにかざすだけで

捨て方や活用法がわかるスマホアプリです



活用法がわかる！



捨て方



売り方



活用法

いらないものをスマホに写せば…

かざして分かることいろいろ！



捨て方がわかる

スマホカメラでいらないものをかざすだけで、捨て方を教えてくれます。もう、難しい冊子と格闘する必要はありません。



売り方がわかる

どこのお店だったら高く売れるのか、すぐ引き取ってくれそうなお店はどこなのか、分かりやすく一覧で表示します。



活用法がわかる

捨て方だけではなく、新たな活用の方法が分かります。割れてしまったお皿も、知らなかったやり方で治ったり、新たなお皿に生まれ変わったりするかもしれません。

背景：深刻な衣類ロス問題

4

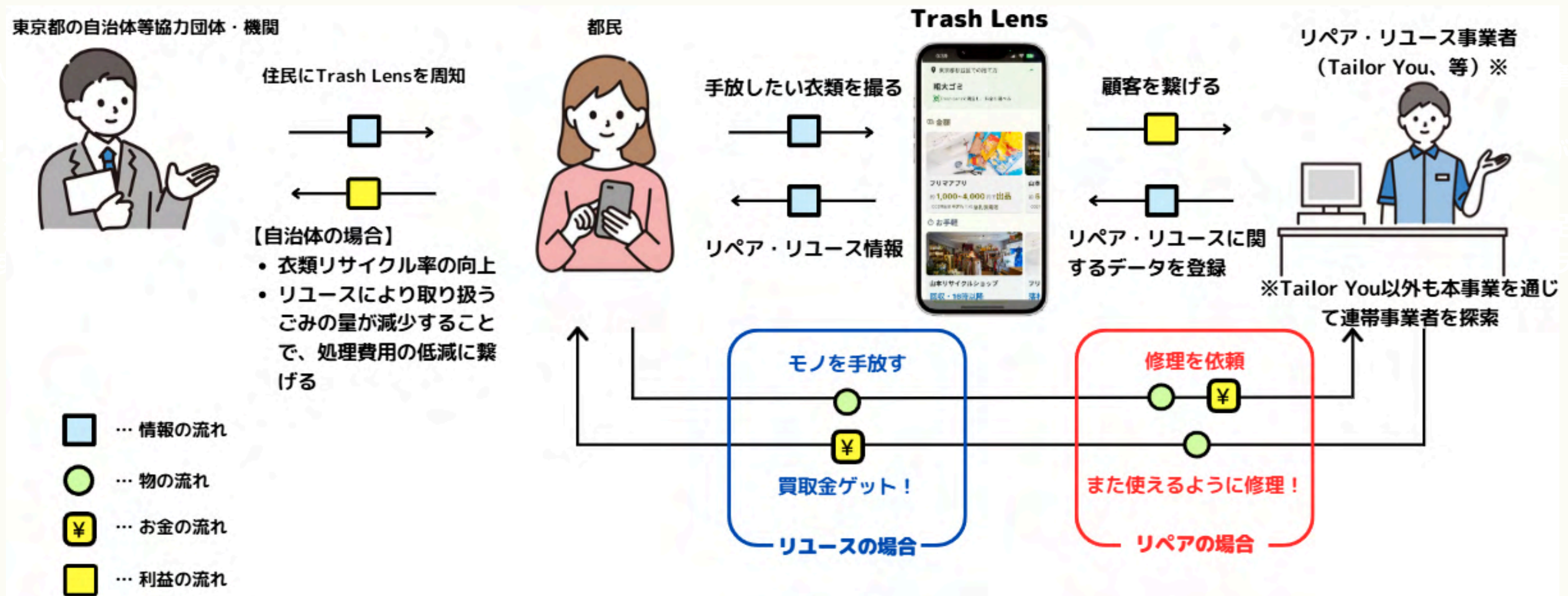
ファッション産業における大量生産・大量消費・大量廃棄は世界的な課題となっています。日本では一人当たり年間に約12枚の服を手放し、そのうち約68%が焼却・埋め立て処分されています。また、所有する服のうち年間一度も着用されない服は約35枚にのぼります。消費者の「リユースしたい」という潜在的なニーズは高いものの、実際の行動には「手間がかかる」「方法がわからない」という大きな壁が存在します。

出典：環境省「SUSTAINABLE FASHION」

https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/

目的：アプリを通じたリペア・リユースを促進

本事業では、ゴミ分別アプリ「Trash Lens」の活用を通じて、東京都内における衣類のリペア（修繕）やリユース（再利用）の実践を促進することを目的としました。これにより、これまで「ごみ」となっていた衣類を資源として循環させ、サーキュラーエコノミーに貢献することを目指しました。



目的の達成のため、以下1～4の取組を本事業にて実施しました。

【取組1】 アプリ「Trash Lens」内に新たなリペア・リユースの動線を構築

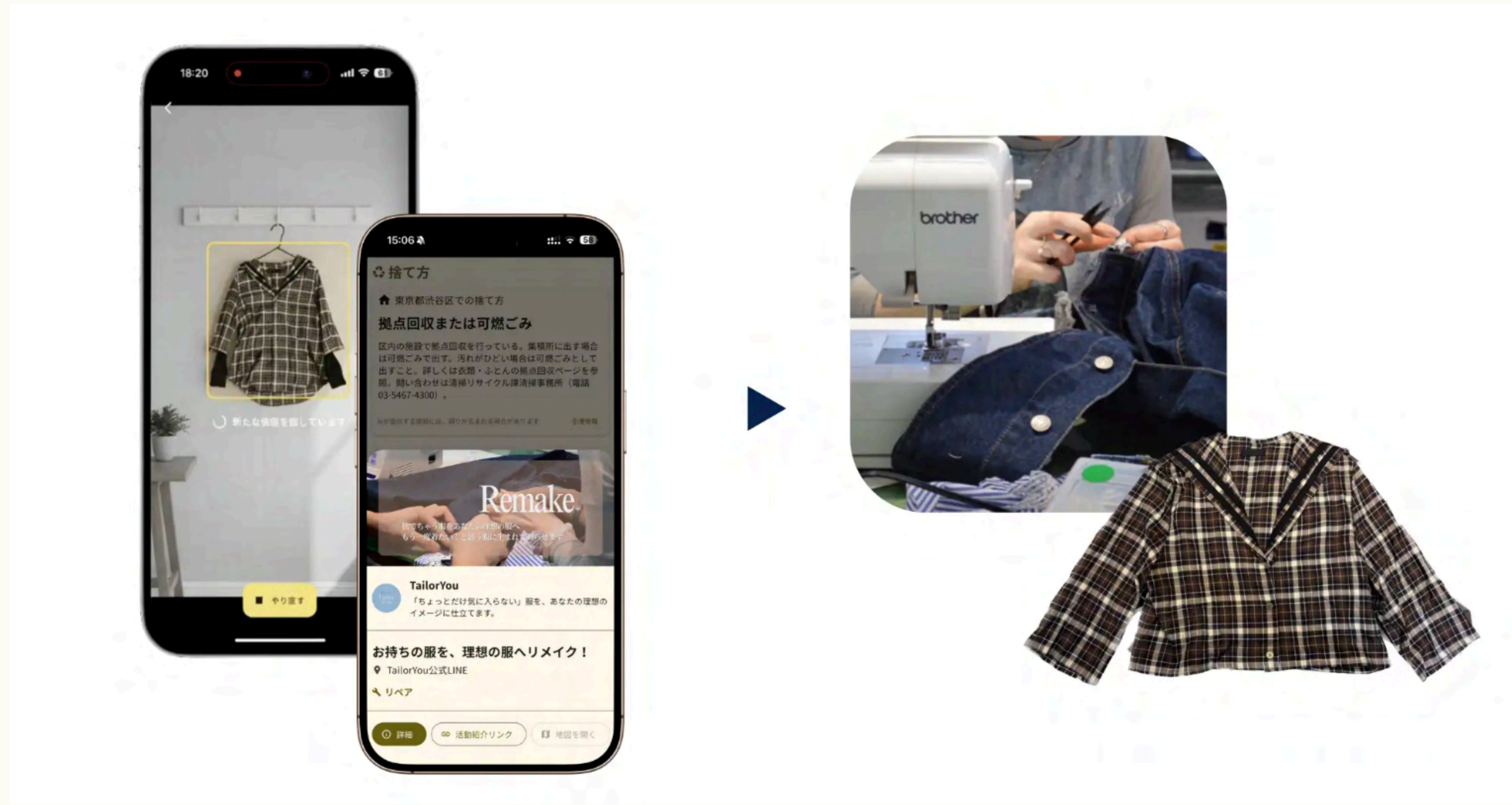
【取組2】 「Trash Lens」の普及と利用促進

【取組3】 新たなリペア・リユースフローの有効性検証

【取組4】 連携リペア・リユース事業者の拡大

【取組1】 新たなリペア・リユース動線を構築

衣類をアプリで判別し、連携事業者のリペアやリユースサービスへ案内する機能を実装しました。
(2025年9月実装完了)



【取組2】 「Trash Lens」の普及と利用促進

東京都内でのアプリ「Trash Lens」の認知度向上を目的として以下のような展示会出展等の施策を実施しました。

[未来のゴミ分別アプリ「Trash Lens」、東京都「サーキュラーエコノミーの実現に向けた社会実装化...](#)



PR timesにてプレスリリースを公表
(2025/10/15)

🕒 2025年10月15日 15時08分
Trash Lens株式会社

目的



東京都環境局主催事業にてブースを出展
(2026/1/24-25)

【取組2】 「Trash Lens」の普及と利用促進

東京都内でのアプリ「Trash Lens」の認知度向上を目的として以下のような展示会出展等の施策を実施しました。

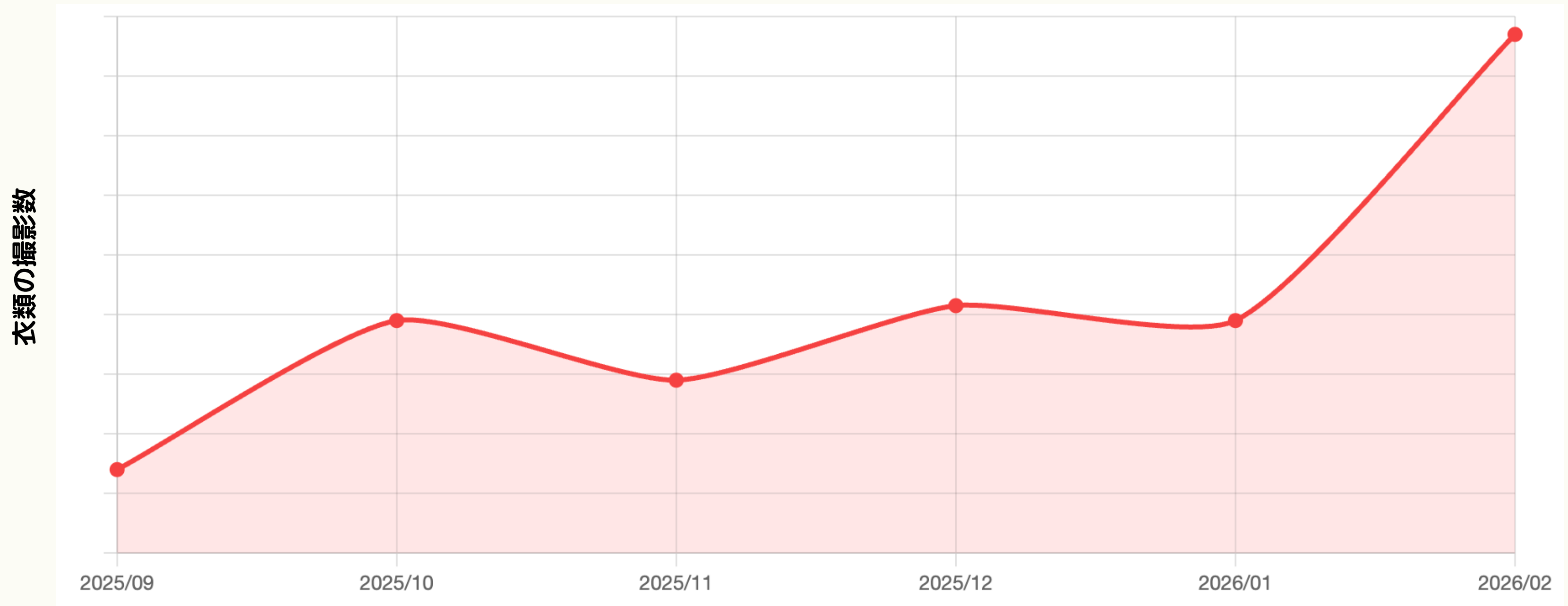


“1000着の「こうだったらいいのに」”展を共催。
アプリ訴求を実施
(2026/2/7)

所有しているものの多くは着られず、一度も着用されない服が大量にあるという現状を「着られない服の山」と呼ぶ人もいます。また、「着られない服の山」は「着られない服の山」という大きな壁が存在します。この壁を乗り越えるために、リユース（再利用）の実践を促進することを目的として、廃棄物の削減とサーキュラー・エコノミーの実現を目指しています。

【取組3】 リペア・リユースフローの有効性検証

本事業の開始後、アプリ「Trash Lens」を通じて撮影された衣類数の推移を以下に示す。本取組み等により、衣類の撮影数は事業開始時の9月から終了時の2月にかけて、約6倍に増加しました。



※具体的な撮影数は非公表

【取組 4】 連携リペア・リユース事業者の拡大

11

本事業開始後、新たに「株式会社FASHION X」に連携事業者として参画いただき、「リフォームスタジオ株式会社」と連携に向けて協議を進めました。



TailorYou
(事業開始時より連携)



株式会社FASHION X
(2025/10より連携)

衣類等の修繕・リメイクサービスを展開する業者と
2025/10より連携協議

課題

構築したリペア・リユースへの新たな動線や、拡大した連携事業者のネットワークを最大限に活かし、地域社会における資源循環のインパクトをさらに大きなものにしていくためには、アプリ「Trash Lens」の利用者層をより一層拡大していくことが今後の課題となります。

今後の展望

これまでの広報活動（プレスリリースやイベント出展など）で得られた知見を基に、より幅広い層へ向けたアプローチを強化します。アプリの利便性や「捨てる前にかざす」という新しい体験の価値を積極的に訴求し、ユーザー数の飛躍的な増加と日常的な利用習慣の定着を目指すことで、サーキュラーエコノミーの実現を推進していきます。